

1 配当時間（1時間目～10時間目）学習指導案の例

歴史や特性に触れ、礼法を学ぶ段階		着装・結束を学ぶ段階		基本動作・技を学ぶ段階		技を学び・技を試す・判断する段階				
過程	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
導入	集合・挨拶 目標確認 安全確認	集合・挨拶 目標確認 安全確認	着装・集合挨拶・礼（相手を尊重し伝統的な行動の仕方を守る）・目標確認・安全確認（健康安全に気を配る）							
	①オリエンテーション 剣道の歴史 剣・鎧・刀 剣道の特性 剣道用具 竹刀の名称 安全指導 DVD など	①基本動作 ・自然体 ・体さばき ・送り足 ・踏み込み足 ・竹刀の安全な 取り扱い ・構え方 ・中段の構え	②基本動作 ●基本打突	②面の着装 ●基本打突	②基本打突 正面、小手、胴	②二段技 小手→面	②引き技 鰐ぜり合い 引き面	②抜き技 面抜き胴	②既習技 かかり練習 グループ別	
	②礼法 立礼・座礼	②素振り ・正面、小手、 胴 ・斜め振り	相手の動きに応じた基本動作・課題に応じた運動の取り組み方の工夫							
	相手を尊重し 伝統的な行動 の仕方を守る	③剣道体験 ・ボール打ち ・手拭い切り ・新聞切り など	③基本となる技・基本打突の段階的練習 ・正面、小手、胴 小手→面 引き面 *面→胴 *引き胴	④判定試合 ア. 技の出来栄を競う イ. 応じ技の試合 面抜き胴 3 本勝負 (4 人組判定・評価)	④判定基準 ●判定基準 気 大きな声 剣 打突部位を打つ 体 姿勢と残心	④簡単な試合 ・ポイント制の試合 (4人組判定・評価) ・個人戦(リーグ戦) (30秒～45秒)	③自由練習で技を試す 打ったり受けたり するなどの攻防を 展開する			
	整理									
整理運動・本時のまとめ・評価（教師の評価、生徒の自己評価など）・健康安全の確認・礼・片付け（道具の安全・管理）										

学習活動に即した評価（1年の例）									
関心・意欲・態度	伝統的な行動の仕方を守ることができている	場所、用具の安全に留意し積極的に取り組んでいる		仲間と協力して安全に剣道具（防具）を着けている				記録や審判などの分担した役割を果たそうとしている	禁じ技を用いないで安全に留意し練習している
思考・判断							有効打突のポイントを残している	安全上の留意点を学習場面で当てはめている	面抜き胴のポイントを残している
運動の技能			号令や動きに合わせて基本動作ができている		正面、小手、胴の打ち方打たせ方の基本動作ができている			自由練習で既習の技を積極的に打とうとしている	しかけ技や応じ技を用いて打ったり、受けたりしている
知識・理解	剣道の歴史や特性を理解している	竹刀の名称や剣道で高まる体力を理解し書き出している		相手の動きに応じた基本打突の行い方を理解している		有効打突の条件を言ったり、書いたりしている			試合の行い方について理解している
剣道で伝えたい精神性・態度育成									
剣道の歴史			残心		勇氣（克己）		共存と共生		側隠の情
・江戸時代から受け継がれた我が国の身体運動文化・対人運動（伝統的な考え方や行動の仕方）を学ぶ			・残心は技を打った後も気を抜かず、身に構えを構えを示す動作であるが「残心」のある生活の大切さを知ることや今後の人生に活かせることを学ぶ		・恐怖心を打ち破る真の勇氣を持つて攻める気持ちや立ち向かっていく正義感を学ぶ		・基本技の練習で打ったり、打たせたりして、基本技の出来栄を確認し合う中で、互いによりよい技をめざし、相手と互いに高め合うことの大切さを学ぶ		・剣道では勝敗が決まった後も、勝ち負けに関係なく互いが心身を正し礼法を行う。これは誰もが湧き上がる感情を抑え、負けた人の心を汲み取るという日本の伝統的な考え方があることを学ぶ
剣道の特性 対人性			間合（距離）		平常心				
・剣道は相手と正対し、相手の目を見て技を競う。相手の目を見て礼を行う			・相手と自分の距離が近すぎず、遠すぎず、適切な距離の中で攻防を楽しむ体験により、人間関係づくりも同様に、相手との距離を考えると学ぶ		・試合や審判で、有効打突の条件である「気剣体一致」を理解し、素早い動きで打ち合う技を、瞬間的に正しく判断し、決断・評価する。また、仲間との認め合いや学習課題の定着・深まりを学ぶ				
道具の安全と管理			感謝・思いやり						
・道具を安全に大切に扱う。物を大切にすることは相手に対する思いやりの心を育む			・打ったり、打たれたりすることで互いの痛みを知り、思いやりの心を知る。また技や心の向上により、感謝や優しさを学ぶ						

配当時間 1/10

【関心・意欲・態度】 ◆伝統的な行動の仕方を守り、安全に配慮し協力して取り組むことができる

【知 識 ・ 理 解】 ◆伝統的な考え方や行動の仕方を理解し日常生活に生かすことができる

[illegible]

本時の
目標

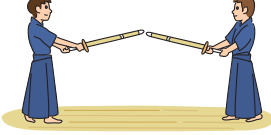
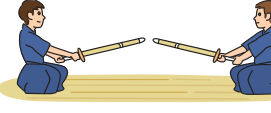
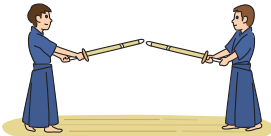
配当時間 2/10

【関心・意欲・態度】 ◆場所や用具の安全に配慮し、協力して取り組むことができる

【知 識 ・ 理 解】 ◆竹刀の名称や剣道で高められる体力について理解し、積極的に取り組むことができる

時配	学習内容と活動	学習形態	○指導上の留意点	☆指導のポイント・つまづきの解決法 ●評価（評価方法）
導入 10分	※準備 ●竹刀、胴を準備し集合 ●体育ノートに課題を記入	一 斉 ↓	○健康観察、服装確認を行う。	○学んだ礼法を学校や家庭で実践できたか 確認し礼の日常化を促す。
	①集合・正座・礼 ②本時の学習内容と課題の確認 ③準備運動 ●3分間全身連続運動 ●準備体操 ④補強運動・補助運動 ●敏捷性を高める運動	基本動作（構え、目付、体さばき、踏み込み動作）を身に付けよう		
展開 30分	⑤主運動 ①基本動作 ●構え・送り足 ●体さばき・残心 ●目付 ●自然体 ●手刀で前後左右	一 斉 ↓	○3分間の連続運動（ツーステップ・前後左右）などの動きを行い、準備体操を行わせる。 ○剣道で高める体力を理解し、敏捷性を高める運動を行わせる。	【知識・理解】 ●竹刀の名称や剣道で高める体力について理解し書き出している。（学習ノート）
	●手刀の基本動作ドリル ●送り足→すり足→踏み込み足→残心（正面・小手・胴） 正面は頭上から肩の高さ 小手は顔前からへその高さ 胴は頭上から斜め45度の角度 相手の右胴で止める	ペ ア ↓	○基本動作の重要性を理解させる。 ○背筋を伸ばし、両手を体側におろし、無理のない姿勢をとらせる。 ○自然体から手刀で臍前に構えさせる。 ①送り足「ヤーヤーヤー」の発声で3歩攻めて前進 ②手刀で送り足3歩 発声はメンメンメン ③3歩ヤーの発声ですり足 ④1歩「メン」の発声で踏み込んで ⑤右足を軸に残心を示す ①～⑤を同様に「コテ」「ドー」	☆基本動作である、体さばきは相手に打突したり、かわしたり、相手の打突を防ぐための身のかましなど、打つ際の足の運び方であり、その基礎となるのが足のさばき方であることを理解させる。 ☆左足（後足）が遅かったり残ったりしないように素早く引き付けさせる。
	②対人で一連の基本動作 ●師匠と弟子	一 斉 ↓ グループ	○元立ち（師匠）は歯切れの良い号令をかけ、かかり手（弟子）は号令に従い前後左右、面、小手、胴、残心までの一連の動作を相手と目を離さず、呼吸を合わせて行わせる。	☆有効打突の理解 気…気迫のある大きな声 剣…打突部位を打突部で刃筋正しく打突する 体…体さばき、足さばき、姿勢 残心…打突後の身構え、気構え
	③剣道具の着装と結束 垂れと胴 ●剣道具の置き方 ●着装 ●外し方と結束 ●収納の仕方	一 斉	○防具は自分の身を守るプロテクターであると同時に、大切な道具であることを理解させる。 ○丁寧に取扱い、安全に配慮させる。	☆剣道には結びの文化があることを理解させる。 ☆いったん着けた剣道具は取れないように着装させる。
整理 10分	⑥整理運動（全身連続運動） ⑦本時の学習の反省と評価 ⑧片づけ ⑨正座・礼	一 斉 ↓	○前進後退で面小手胴の素振りをゆっくり大きく各10本行わせる。 ○学習ノートに本時の課題について自己評価し記入させる。 ○安全に配慮し片づけさせる。 ○礼法を丁寧に行わせる。	☆竹刀の握り方を変えないように真っ直ぐに大きく振りかぶり、振り下ろすように行わせる。 ☆①送り足などの基本動作は、リズムに合わせて行うことで意欲的に取り組める。

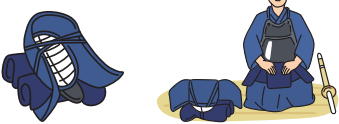
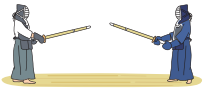
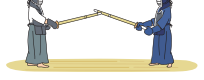
**本時の
目 標**
配当時間 3/10
【運動の技能】 ◆号令や相手の動きに合わせて基本動作ができる

時 配	学習内容と活動	学習 形態	○指導上の留意点	☆指導のポイント・つまずきの解決法 ●評価（評価方法）
導入 10分	※準備 ●竹刀、垂、胴を着装し集合 ●体育ノートに課題を記入 ----- ①集合・正座・礼 ②本時の学習内容と課題の確認 ③準備運動 ●3分間全身連続運動 ●準備体操 ④補強運動・補助運動 ●手刀による攻防（敏捷性） ※竹刀の安全確認	一 斉	○仲間と協力し時間内に垂と胴を着装させる。 〇健康観察、服装確認を行う。 ○3分間の連続運動（送り足→すり足→踏み込み足→残心）の基本ドリル 正面、小手、胴を行わせる。 ○手刀による攻防で敏捷性を高める運動を行わせる。	☆指導のポイント・つまずきの解決法 ●評価（評価方法） ☆後足が残らないように素早く引き付けさせる。 ☆正面、小手、胴の基本となる技のポイントを身に付けさせる。 ☆手刀で正対しリーダーの出す技に対して敏感に反応して技を出し合い攻防を楽しませる。
	相手と気を合わせて、基本となる技の打ち方を身に付けよう			
展開 30分	⑤主運動 ①構えと目付け（竹刀使用） ●中段の構えと目付け（2人組）  ●構え方と納め方（蹲踞）   ●素振り（空間打突） ●竹刀の握り方 ②打ち方と打たせ方 ●打突部位の確認 ●段階的な打突 その場打ち→前進後退で打つ→踏み込んで打つ→残心 ③約束練習 ●リズムに乗って打つ ●師匠（元立ち）と弟子（かかり手） 	一 斉 ペア	○相手と正対し、目を合わせて礼を行ってから中段に構えさせる。 ○足の構え体重のかけ方に注意させる。 中段の構え（正面）（側面） ○素振りは、左手で振り上げ足の移動とともに振り下ろさせる。 ○空間打突（正面打ち、小手打ち、胴打ち）を理解させ行わせる。 ○正面、小手、胴の打突位置の確認し、打たせ方を行わせる。 正面 小手 胴 ○リズムに乗って正面、小手、胴を6本ずつ打ち合わせる。 〇前進後退+打ち ○師匠と弟子の関係で、互いに基本動作を行い、基本となる技を打たせる。	☆剣道では、相手と正対し目を合わせる、気を合わせることが基本的な考え方であることを理解させる。 ☆中段の構えが攻防に適している構えであることを理解させる。 ☆振りかぶりが小さく剣先が両こぶしの高さより下がらないようにさせる。 【運動の技能】 ●号令や動きに合わせて基本動作ができる。（観察） ☆ネリーブライなどの曲に合わせて行わせ、後足の引き付けを意識させる。 ☆師匠（元立ち）の号令や動きに対して、体さばきなどの基本動作を行い基本となる技を打たせる。
整理 10分	⑥整理運動（全身連続運動） ⑦本時の学習の反省と評価 ⑧片づけ ⑨正座・礼	一 斉	○呼吸を整えながら、上下素振りを大きくゆっくりと体の中心を（正中線）を通して10本振らせる。 ○学習ノートに本時の課題について自己評価し記入させる。 ○安全に配慮し片づけさせる。 ○礼法を丁寧に行わせる。	☆竹刀の握り方を変えないように真っ直ぐに大きく振りかぶり、振り下ろすように行わせる。

本時の
目 標

配当時間 4/10

- 【関心・意欲・態度】 ◆仲間と協力して、安全に剣道具（防具）を着けることができる
 【知 識 ・ 理 解】 ◆相手に応じた基本打突の行い方を理解することができる

時 配	学習内容と活動	学習 形態	○指導上の留意点	☆指導のポイント・つまづきの解決法 ●評価（評価方法）
導入 10分	※準備 ●竹刀、垂、胴、面を準備し集合 ●体育ノートに課題を記入 ①集合・正座・礼 ②本時の学習内容と課題の確認 ③準備運動 ●3分間全身連続運動 ●準備体操 ④補強運動・補助運動 ●敏捷性を高める運動	一 斉	○仲間と協力し時間内に垂と胴を着装させ、竹刀の安全を確認させる。 面の際ができたところを見つけ正面を打ってみよう ○健康観察、服装確認を行う。 ○3分間の連続運動 （送り足→すり足→踏み込み足→残心） の基本ドリル正面、小手、胴を行わせる。 	【関心・意欲・態度】 仲間と協力して、安全に剣道具（防具）を着けている。（観察）
	⑤主運動 ●置き方  ①面と小手を着装する ●間合 遠間  一足一刀の間  一 斉 ペ ア ペ ア	一 斉 ペ ア ペ ア	○手拭のつけ方と面の着装、小手の着装について説明する。 ○2人組で協力し合い着装させる。 ○間合（相手と自分の距離）遠間・一足一刀の間合について説明する。 ○攻めることにより隙ができることを理解させる。 遠間 → 1歩進んで攻める → 一足一刀の間 → 打突 → 残心	☆横に並べた小手の上に面をのせ、自分の右斜め前に置かせる。 ☆面はかぶって物見を合わせる、後ろで結んだら4本のひもを揃える、耳抜きをするなどのポイントを理解させる。 ☆小手は、左小手から着け、次に右小手を着ける（外すときは右→左）順序が文化としてあることを理解させる。 ☆「攻め」とは、遠い間合いから1歩前へ出て一足一刀の間合に入るなど積極的に仕掛けることで、相手がこちらの攻めに対し何らかの反応や変化を示した時に初めて攻めとなることを理解させる。
展開 30分	②打たせ方 ●正面、小手、胴の打たせ方  正面  小手  胴 ③正面の段階的な打ち方  1  2  3	一 斉	○打たせ方について説明する。 （隙ができる・隙を与える） ・剣先が右に開く⇒正面 攻め⇒剣先が上がる⇒右小手 ・手元が上がる⇒右胴 ○基本となる技を段階的な打ち方を理解し行わせる。 ○打ちと掛け声一致するように行わせる。 ①打突部で打突部位を3回打つ ②一足一刀から送り足で3回打つ ③一足一刀の間合に攻め入って踏み込んで打つ→残心→戻りながら打つ ○左足の引き付けに注意して行わせる	☆基本となる技を身に付けるためには、打つ方も大切だが、むしろ打たせる側の打たせ方の間合、隙の与え方のタイミング、体のさばきなどで有効打突になることを理解させる。
	⑥整理運動（全身連続運動） ⑦本時の学習の反省と評価 ⑧片づけ ●剣道具の結束法 ⑨正座・礼	一 斉	○呼吸を整えながら、大きくゆっくりと面打ちを5本連続して打たせる。 ○学習ノートに本時の課題について自己評価し記入させる。 ○安全に配慮し片づけさせる。 ○礼法を丁寧に行わせる。	☆互いによりよい技を目指し互いに高めあうことの大切さに気付かせる。

本時の
目標

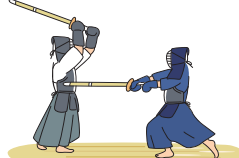
配当時間 5/10

【運動の技能】 ◆正面、小手、胴の打ち方、打たせ方の基本動作ができる

時配	学習内容と活動	学習形態	○指導上の留意点	☆指導のポイント・つまずきの解決法 ●評価（評価方法）
導入 10分	※準備 ●竹刀、垂、胴、面を準備し集合 ●体育ノートに課題を記入 ----- ①集合・正座・礼 ②本時の学習内容と課題の確認 ③準備運動 ●3分間全身連続運動 ●準備体操 ④補強運動・補助運動 ●敏捷性を高める運動	一斉	○仲間と協力し時間内に垂と胴を着装させ、竹刀の安全を確認させる。	☆指導のポイント・つまずきの解決法 ●評価（評価方法）
	⑤主運動※面と小手を着装する ①打たせ方 ●間合（一足一刀） ●正面、小手、胴の打たせ方 ②小手の段階的な打ち方 ③胴の段階的な打ち方 ③約束練習 遠間→1歩進んで攻める→ 一足一刀の間→打突→残心	一斉 ペア	○剣道具の着装は短時間で正確にできるよう仲間と協力して行わせる。 ○打ちと掛け声が一致するように行わせる。 ○間合と攻めについて確認させる。 遠間→1歩進んで攻める→一足一刀の間→打突→残心 ○打たせ方について説明する。（隙ができる・隙を与える） 面を打て → 剣先が右に開く → 正面 小手を打て → 剣先が上がる → 右小手 胴を打て → 手元が上がる → 右胴 ○基本となる技を段階的な打ち方により理解させる。 ① その場で打突部位を3回打つ ② 一足一刀の間合から3回打つ ③ 一足一刀の間合に攻めて入り踏み込んで打つ→残心→戻りながら打つ ※体をさばいて抜けさせ残心を示させる。 ○正面、小手、胴を「〇〇を打て」の号令で元立ちが隙を与え打たせる。	☆後足を素早く引き付けさせる。 ☆正面、小手、胴の基本となる技のポイントを身に付けさせる。 ☆手刀で正対しリーダーの出す技に対して敏感に反応して技を出し合い攻防を楽しませる。 ☆横に並べた小手の上に面のをせ、自分の右斜め前に置かせる。 ☆面はかぶって物見を合わせる、後ろで結んだら4本のひもを揃える、耳への圧迫を取るなどのポイントを理解させる。 ☆小手は、左小手から着け、次に右小手を着ける（外すときは右→左）順序が文化としてあることを理解させる。 ☆基本となる技を身に付けるためには、打つ方も大切だが、むしろ打たせる側の打たせ方の間合、隙の与え方のタイミング、体のさばきなどで有効打突になることを理解させる。 【運動の技能】 ●正面、小手、胴の打たせ方の基本動作ができている。（観察） ☆約束練習で、打たせる側は、相手の攻めに対して、打突部位を開けるようにさせ、一打一打を確実に行わせる。 ☆打つ、打たせて気づいたことを発表させ、学習の安全への配慮などに気付かせる。
整理 10分	⑥整理運動（全身連続運動） ⑦本時の学習の反省と評価 ⑧片づけ ●剣道具の結束法 ⑨正座・礼	一斉	○呼吸を整えながら、大きくゆっくりと面打ちを5本連続して打たせる。 ○学習ノートに本時の課題について自己評価し記入させる。 ○安全に配慮し、片づけさせる。 ○礼法を丁寧に行わせる。	

**本時の
目 標**
配当時間 6/10

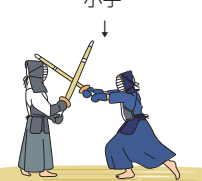
- 【思考・判断】 ◆有効打突になるポイントを見つけることができる
 【知識・理解】 ◆有効打突の条件を理解できる

時 配	学習内容と活動	学習 形態	○指導上の留意点	☆指導のポイント・つまずきの解決法 ●評価（評価方法）
導入 10分	※準備 ●竹刀、垂、胴、面を準備し集合 ●体育ノートに課題を記入 ①集合・正座・礼 ②本時の学習内容と課題の確認 ③準備運動 ●3分間全身連続運動 ●準備体操 ④補強運動・補助運動 ●敏捷性を高める運動	一 斉	○仲間と協力し時間内に垂と胴を着装させ、竹刀の安全を確認させる。	☆指導のポイント・つまずきの解決法 ●評価（評価方法） ☆後足を素早く引き付けさせる。 ☆正面、小手、胴の基本となる技のポイントに身に付けさせる。 ☆手刀で正対しリーダーの出す技に対して敏速に反応して技を出し合い攻防を楽しませる。
展開 30分	※面と小手を着装する ⑤主運動 ①既習練習 ●基本となる技の段階的練習（正面・小手・胴） ●約束練習  ②技のできばえを競う判定試合（絶対評価） ※5人組でローテーション   ③自由練習 ※30秒×3回 	一 斉 ペ ア 5人組 ペ ア	○剣道具、竹刀の安全を確認する。 ○正面、小手、胴の段階的な打ち方を確認し行わせる。 ①その場で打突部位を3回打つ ②一足一刀の間合から3回打つ ③一足一刀の間合いに攻めて入り踏み込んで打つ→残心→戻りながら打つ ○正面、小手、胴を「○○を打て」の号令で隙を与え打たせる。 ○有効打突をめざして行わせる。 ○判定基準を明確にさせる。 (1) 大きな声 (2) 打突部で打突部位を捉える (3) 姿勢、体、足の出と残心 ○主審に大きな声で号令をかけさせる。 ・礼→はじめ→判定→礼→評価（説明） 気 ▲ × △ 体 剣 ○自由練習で学習した正面、小手、胴の技を積極的に出して攻防をさせる。 ○常に相手を尊重し行わせる。	☆打たせ方について確認する。 (隙ができる・隙を与える) 正面…剣先が開く(右方向へ) 小手…剣が上がる(右小手を打たせる) 胴…手元が上がる(右胴を打たせる) ※体をさばいて抜けさせ残心を示させる。 ☆有効打突の条件 気…気迫のある大きな声 剣…打突部位を打突部で刃筋正しく打つ 体…体さばき、足さばき、姿勢 残心…打突後の身構え、気構え 【思考・判断】 ●仲間の有効打突にするポイントを見つけている。(学習カード) 【知識・理解】 ●有効打突の条件を言ったり書いたりしている(学習ノート)
整理 10分	⑥整理運動（全身連続運動） ⑦本時の学習の反省と評価 ⑧片づけ ⑨正座・礼	一 斉	○呼吸を整えながら、大きくゆっくりと面打ちを5本連続して打たせる。 ○学習ノートに本時の課題について自己評価し記入させる。 ○安全に配慮し、片づけさせる。 ○礼法を丁寧に行わせる。	☆互いに良いところを認め合い、相手に伝えられたか確認させる。 ☆自分の好きな技は何か、また、自由練習をしてみても技を出せたか、真の勇気について気付かせる。

本時の目標

配当時間 7/10

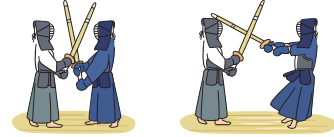
- 【関心・意欲・態度】 ◆記録や審判などの役割分担を果たすことができる
 【思考・判断】 ◆学習した安全上の留意点を学習場面であてはめることができる

時配	学習内容と活動	学習形態	○指導上の留意点	☆指導のポイント・つまずきの解決法 ●評価（評価方法）
導入 10分	※準備 ●竹刀、垂、胴、面を準備し集合 ●体育ノートに課題を記入	一斉	○仲間と協力し、時間内に垂と胴を着装させ、竹刀の安全を確認させる。	【思考・判断】 学習した安全上の留意点を学習場面であてはめている。（観察、学習ノート）
	①集合・正座・礼 ②本時の学習内容と課題の確認 ③準備運動 ●3分間全身連続運動 ●準備体操 ④補強運動・補助運動 ●敏捷性を高める運動		○健康観察、服装確認を行う。 ○3分間の連続運動（送り足→すり足→踏み込み足→残心）の基本ドリル 正面、小手、胴、小手→正面を行わせる。 ○手刀による攻防で、敏捷性を高める運動を行わせる。	☆後足を素早く引き付けさせる。 ☆正面、小手、胴、小手→面のポイントを身に付けさせる。
展開 30分	※面と小手を着装する ⑤主運動 ①既習練習（各技を2本づつ） ●正面、小手、胴の打ちこみ練習 ②二段の技（小手→正面） ●打ち方と打たせ方	ペア	○剣道具、竹刀の安全を確認する。 ○正面、小手、胴の6本打ちを行わせる。 ○連続技は最初の打突が失敗したときに、隙が生じた部位を即座に打つ技を連続技といい、この他に小手→胴などの技があることを理解させる。 ○二段打ちの踏み込み足、踏み切り足の引き付けについて重点的に説明する。 ○打たせ方について確認させる。 小手…剣が上がる（右小手を打たせる） 正面…剣先を開く（右方向へ） ○小手→正面の段階的練習を行わせる。 ①その場で打突部位を3回打つ ②一足一刀の間合から3回打つ ③一足一刀の間合いに攻めて入り踏み込んで打つ→残心→戻りながら打つ	☆攻めて相手の右小手を打ち、相手が竹刀を開いたり、手元を下げて防いだりしたところをすかさず面を打つようにさせる。 ☆特に小手を打った後の、後足の引き付けを素早く行うことで、面の踏込が上手くできることを理解させる。
	 小手面を打て  正面			☆打たせる側は小手を打たせた後に1歩退いて面の打ち間をつくり右に体をさばき抜けさせる。
	②技のできばえを競う判定試合 ※3人組でローテーション ●礼→はじめ→判定→礼→評価	3人組	○判定基準を明確にさせる。 (1) 大きな声 (2) 打突部で打突部位を捉える (3) 姿勢、体、足の出と残心	☆有効打突の条件 気…気迫のある大きな声 剣…打突部位を打突部で刃筋正しく打つ 体…体さばき、足さばき、姿勢 残心…打突後の身構え、気構え
整理 10分	③自由練習 ※30秒×3回	ペア	○自由練習で学習した正面、小手、胴の技を積極的に出して攻防をさせる。 ○常に相手を尊重し、行わせる。	【関心・意欲・態度】 ●記録や審判などの分担した役割を果たそうとしている。（観察、学習のノート）
	⑥整理運動（全身連続運動） ⑦本時の学習の反省と評価 ⑧片づけ ⑨正座・礼	一斉	○呼吸を整えながら、大きくゆっくりと面打ちを5本連続して打たせる。 ○学習ノートに本時の課題について自己評価し記入させる。 ○安全に配慮し、片づけさせる。 ○礼法を丁寧に行わせる。	☆互いに良いところを認め合い、相手に伝えられたか確認させる。 ☆自分の好きな技は何か、また、自由練習をしてみて技を出せたか、真の勇氣について気付かせる。

本時の
目標

配当時間 8/10

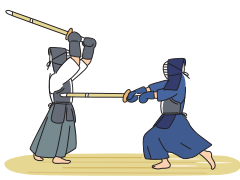
【運動の技能】 ◆自由練習で、既習の技を積極的に打つことができる

時配	学習内容と活動	学習形態	○指導上の留意点	☆指導のポイント・つまずきの解決法 ●評価（評価方法）
導入 10分	※準備 ●竹刀、垂、胴、面を準備し集合 ●体育ノートに課題を記入 ①集合・正座・礼 ②本時の学習内容と課題の確認 ③準備運動 ●3分間全身連続運動 ●準備体操 ④補強運動・補助運動 ●敏捷性を高める運動	一斉	○仲間と協力し、時間内に垂と胴を着装させ、竹刀の安全を確認させる。 鍔ぜり合いで生じた隙に対して引き技を決めよう ○健康観察、服装確認を行う。 ○3分間の連続運動（送り足→すり足→踏み込み足→残心）の基本ドリル 正面、小手、胴、小手→面、引き面を行わせる。 ○手刀による攻防で敏捷性を高める運動を行わせる。	☆後足を素早く引き付けさせる。 ☆正面、小手、胴、小手→面、引き面のポイントを身に付けさせる。 ☆引き技は、体当たりや鍔ぜり合い、または攻めによって相手の構えが崩れ、隙が生じたところをすかさず退きながら打つ技で引き面や引き胴などの技があることを理解させる。 ☆男女差、体格差、体力差などを配慮し、暴力的な鍔ぜり合いにならないよう配慮させる。
展開 30分	※面と小手を着装する ⑤主運動 ①既習練習（各技を2本づつ） ●正面、小手、胴、小手→面の打ち込み練習 ②しかけ技（引き面） ●鍔ぜり合い→引き面  ●面→鍔ぜり合い→引き面   ③自由練習 ※30秒×3回 	ペア 3人組 ペア	○剣道具、竹刀の安全を確認する。 ○正面、小手、胴の8本打ちを行わせる。 ○相手と握手の距離に接近し、鍔と鍔とがせり合う状態を理解させる。 ○打たせる側は手元を下げ、下腹部に力を入れ腰を立てて体当たりを受けさせる。 ○引き面の段階的練習を行わせる。 1 打突部を3回打つ 2 鍔ぜり合いから引きながら打つ→残心3回 ○送り足、または開き足で、後方または斜め後方に引きながら面を打たせる。 ○打った後の姿勢が崩れやすいので、正しい姿勢で身体と剣先を相手に向けて残心を示させる。 ○習熟するにつれ、一連の動作として大きく早く強く打つようにさせる。 ○自由練習で学習した正面、小手、胴の技を積極的に出して攻防をさせる。 ○常に相手を尊重し、行わせる。	☆引き技は、打突を行う際の間合いや足さばきのタイミングを工夫させる。 ☆退きながらの打ちは、前へ出たの打ちより打ちが弱いので、手の内をきかせて大きい動作で打たせる。 【運動の技能】 ●自由練習で、既習の技を積極的に打とうとしている。（観察）
整理 10分	⑥整理運動（全身連続運動） ⑦本時の学習の反省と評価 ⑧片づけ ⑨正座・礼	一斉	○呼吸を整えながら、大きくゆっくりと面打ちを5本連続して打たせる。 ○学習ノートに本時の課題について自己評価し記入させる。 ○安全に配慮し、片づけさせる。 ○礼法を丁寧に行わせる。	☆自由練習では、恐怖心を打ち破る真の勇気をもって攻める気持ちで行わせる。 ☆自由練習で技を出せたか、間合について気付いたことを発表させる。

本時の
目標

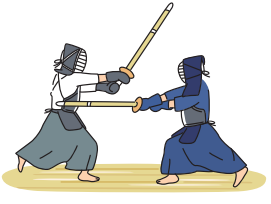
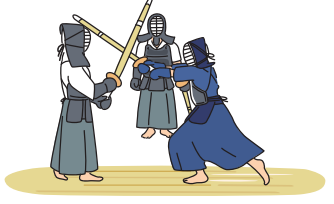
配当時間 9/10

- 【関心・意欲・態度】 ◆ 禁じ技を用いないで、安全に留意して練習することができる
- 【知識・理解】 ◆ 抜き技（面抜き胴）のポイントを理解し課題に応じた学習ができる

時配	学習内容と活動	学習形態	○指導上の留意点	☆指導のポイント・つまずきの解決法 ●評価（評価方法）
導入 10分	※準備 ●竹刀、垂、胴、面を準備し集合 ●体育ノートに課題を記入 ①集合・正座・礼 ②本時の学習内容と課題の確認 ③準備運動 ●3分間全身連続運動 ●準備体操 ④補強運動・補助運動 ●敏捷性を高める運動	一斉 グループ	○仲間と協力し、時間内に垂と胴を着装させ、竹刀の安全を確認させる。 ○健康観察、服装確認を行う。 ○3分間の連続運動（送り足→すり足→踏み込み足→残心）の基本ドリル 正面、小手、胴、小手→面、引き面を行わせる。 ○手刀による攻防で敏捷性を高める運動を行わせる。	
展開 30分	※面と小手を着装する ⑤主運動 ①既習練習（約束練習） ●正面、小手、胴、小手→面各2本 ●面体当たり引き面3本 ②応じ技（抜き技）「面抜き胴」 ・体を右にさばく・面抜き胴   ③面抜き胴の判定試合 ※3人組でローテーション ●礼→はじめ→判定→礼→評価  ③自由練習 ※30秒×3回 	ペア 3人組 ペア	○剣道具、竹刀の安全を確認する。 ○正面、小手、胴の8本打ちを行わせる。 ○面、体当たり、引き面、3本連続打ちを行わせる。 ○相手の技に対して応じ、その技をかわして打つ技であることを理解させる。 ○面抜き胴の段階的練習を行わせる。 ①送り足で1歩斜め右に体をさばく ②正対し面抜き胴を打ち間の中で3回 ③打たせる側は面を打ち込み、打つ側は抜き胴を踏み込んで打って残心を示す ○面抜き胴3本勝負 ○判定基準を明確にさせる。 (1) 大きな声 (2) 打突部で打突部位を捉える (3) 姿勢、体、足の出と残心 ○自由練習で、今まで学習した正面、小手、胴、小手→面、引き面、面抜き胴の技を積極的に出して攻防をさせる。 ○常に相手を尊重し行わせる。	☆抜き技は、相手の打ちこみに対して、体をかわして相手に空を打たせて打つ技である。 ☆相手が面を打とうとする瞬間、送り足で斜め右前に大きく踏み出し、すれ違いながら相手に空を打たせて右胴を打つようにさせる。 ☆打つ時は両肘を十分前に伸ばし手の内を返して平打ちにならないようにさせる※この他に小手抜き面などの技があることを理解させる。 ☆有効打突の条件 気…気迫のある大きな声 剣…打突部位を打突部で刃筋正しく打つ 体…体さばき、足さばき、姿勢 残心…打突後の身構え、気構え 【思考・判断】 ●面抜き胴のポイントを見つけている。（観察・学習ノート） 【関心・意欲・態度】 ●禁じ技を用いないで、安全に留意し、練習している。（観察、学習ノート）
整理 10分	⑥整理運動（全身連続運動） ⑦本時の学習の反省と評価 ⑧片づけ ⑨正座・礼	一斉	○呼吸を整えながら、大きくゆっくりと面打ちを5本連続して打たせる。 ○学習ノートに本時の課題について自己評価し記入させる。 ○安全に配慮し、片づけさせる。 ○礼法を丁寧に行わせる。	☆学習の中で仲間と良いところを認め合い、相手に伝えられたか確認させる。 ☆自由練習で技を出せたか、間合について気付いたことを発表させる。

**本時の
目 標**
配当時間 10/10

- 【運動の技能】 ◆しかけ技や応じ技の基本となる技を用いて打ったり、受けたりすることができる
- 【知識・理解】 ◆試合の行い方について理解できる

時配	学習内容と活動	学習形態	○指導上の留意点	☆指導のポイント・つまづきの解決法 ●評価（評価方法）
導入 10分	※準備 ●竹刀、垂、胴、面を準備し集合 ●体育ノートに課題を記入	一 斉	○仲間と協力し時間内に垂と胴を着装させ、竹刀の安全を確認させる。	
	①集合・正座・礼 ②本時の学習内容と課題の確認 ③準備運動 ●3分間全身連続運動 ●準備体操 ④補強運動・補助運動 ●敏捷性を高める運動	グループ	○健康観察、服装確認を行う。 ○3分間の連続運動（送り足→すり足→踏み込み足→残心）の基本ドリル 正面、小手、胴、小手→面、引き面を行わせる。 ○手刀による攻防で、敏捷性を高める運動を行わせる。	
展開 30分	※面と小手を着装する ⑤主運動 ①グループ別約束練習 ●正面、小手、胴、小手→面各2本 ●面体当たり引き面3本 ●面抜き胴3本 ②自由練習 ※秒×3回 	グループ	○剣道具、竹刀の安全を確認する。 ○正面、小手、胴の8本打ちを行わせる。 ○面体当たり引き面3本連続打ちを行わせる。 ○面抜き胴を相互に3本行わせる。 ○自由練習で、今まで学習した正面、小手、胴、小手→面、引き面、面抜き胴の技を積極的に出して攻防をさせる。 ○常に相手を尊重し行わせる。 ○判定基準を明確にさせる。 (1) 大きな声 (2) 打突部で打突部位を捉える (3) 姿勢、体、足の出と残心 ※有効打突がない場合は積極的に攻めて技を出し、有効打突に近い技が多い方を勝者と判定させる。(説明)	☆既習の練習や攻防を楽しむ場合、互いの間合や技を打つ機会、タイミングなどを大切に取り組ませる。 ☆約束練習は、打たせる側は、相手の攻めに対して、打突部位を開けるようにさせ、一打一打を確実に行わせる。また、良い点や改善すべき点を指摘し合いながら行わせる。
	③ポイント制の試合 ※4人組でローテーション ●礼→はじめ→判定→礼→評価 	4人組	○試合方法を理解させる。 時間：30秒 方法：時間内勝負 役割：主審（判定）副審1人（本数）	☆有効打突の条件 気…気迫のある大きな声 剣…打突部位を打突部で刃筋正しく打つ 体…体さばき、足さばき、姿勢 残心…打突後の身構え、気構え 【運動の技能】 ●しかけ技や応じ技の基本となる技を用いて打ったり、受けたりすることができる。(観察) 【思考・判断】 ●試合の行い方について理解している。(学習ノート)
整理 10分	⑥整理運動（全身連続運動） ⑦本時の学習の反省と評価 ⑧片づけ ⑨正座・礼	一 斉	○呼吸を整えながら、大きくゆっくりと面打ちを5本連続して打たせる。 ○学習ノートに本時の課題について自己評価し記入させる。 ○安全に配慮し、片づけさせる。 ○礼法を丁寧に行わせる。	☆試合などで誰もが湧き上がる感情を抑え、負けた人の心を汲み取る惻隱の情の考え方について理解させる。 ☆試合で技を出せたか、どんな時にうまく打てたか気付いたことを発表させる。

2 学習カードの例（見本）

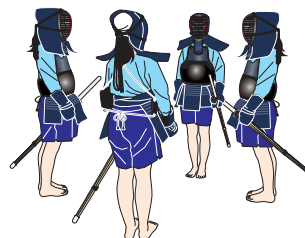
「面抜き胴」の判定試合カード（4人用）

班 員	1	
	2	
	3	
	4	

有効打突《一本》を見極める力をつけよう！

私は、白が勝ちだと思ひます、姿勢がきれい！

私は、赤が勝ちだと思ひます。声が出ていました！



判定試合の行い方

- ☆赤が師匠(打たせる側)、白が弟子(打つ側)でスタート
- ☆主審は「はじめ」と「やめ」で試合を進行する
- ☆1人二本打った後、主審が「判定」と言ったら主審と副審はどちらか良いと思う人の側の手を挙げる
引き分け無し)
- ☆主審と副審の判定が分かれた場合は主審の判定を最終判定とする
- ☆師匠と弟子を交代する
- ☆試合終了後、20秒で評価を行い記録する
試合後1分後、次の試合)

試合の判定ポイント

- 気**…強くて大きな声が出ているか
- 剣**…打突部位を正しく打っているか
- 体**…美しい姿勢・残心（左足）

試合者	主審		試合者	副審	
1 - 2	3	大きな声・打突部位・美しい姿勢 打突部位（ 胴 ）	1 - 2	4	大きな声・打突部位・美しい姿勢 打突部位（ 胴 ）
3 - 4	1	大きな声・打突部位・美しい姿勢 打突部位（ 胴 ）	3 - 4	2	大きな声・打突部位・美しい姿勢 打突部位（ 胴 ）
2 - 3	4	大きな声・打突部位・美しい姿勢 打突部位（ 胴 ）	2 - 3	1	大きな声・打突部位・美しい姿勢 打突部位（ 胴 ）
1 - 3	2	大きな声・打突部位・美しい姿勢 打突部位（ 胴 ）	1 - 3	4	大きな声・打突部位・美しい姿勢 打突部位（ 胴 ）
2 - 4	3	大きな声・打突部位・美しい姿勢 打突部位（ 胴 ）	2 - 4	1	大きな声・打突部位・美しい姿勢 打突部位（ 胴 ）
4 - 1	2	大きな声・打突部位・美しい姿勢 打突部位（ 胴 ）	4 - 1	3	大きな声・打突部位・美しい姿勢 打突部位（ 胴 ）

「面抜き胴」の判定試合カード（4人用）

班 員	1	
	2	
	3	
	4	

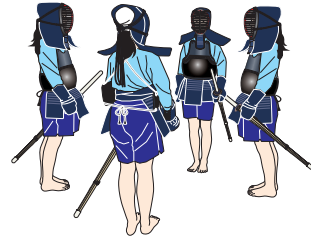
有効打突《一本》を見極める力をつけよう！

判定試合の行い方

- ☆赤が師匠(打たせる側)、白が弟子(打つ側)でスタート
- ☆主審は「はじめ」と「やめ」で試合を進行する
- ☆1人二本打った後、主審が「判定」と言ったら主審と副審はどちらか良いと思う人の側の手を挙げる(引き分け無し)
- ☆主審と副審の判定が分かれた場合は主審の判定を最終判定とする
- ☆師匠と弟子を交代する
- ☆試合終了後、20秒で評価を行い記録する(試合後1分後、次の試合)

私は、白が勝ちだと思っています、姿勢がきれい！

私は、赤が勝ちだと思っています。声が出ていました！



試合の判定ポイント

- 気…強くて大きな声が出ているか
- 剣…打突部位を正しく打っているか
- 体…美しい姿勢・残心（左足）

試合者		主審		試合者		副審	
1　－　2	3	大きな声・打突部位・美しい姿勢		1　－　2	4	大きな声・打突部位・美しい姿勢	
		打突部位（　　　）				打突部位（　　　）	
3　－　4	1	大きな声・打突部位・美しい姿勢		3　－　4	2	大きな声・打突部位・美しい姿勢	
		打突部位（　　　）				打突部位（　　　）	
2　－　3	4	大きな声・打突部位・美しい姿勢		2　－　3	1	大きな声・打突部位・美しい姿勢	
		打突部位（　　　）				打突部位（　　　）	
1　－　3	2	大きな声・打突部位・美しい姿勢		1　－　3	4	大きな声・打突部位・美しい姿勢	
		打突部位（　　　）				打突部位（　　　）	
2　－　4	3	大きな声・打突部位・美しい姿勢		2　－　4	1	大きな声・打突部位・美しい姿勢	
		打突部位（　　　）				打突部位（　　　）	
4　－　1	2	大きな声・打突部位・美しい姿勢		4　－　1	3	大きな声・打突部位・美しい姿勢	
		打突部位（　　　）				打突部位（　　　）	

3 リズム剣道による授業の例（竹刀だけ用いての授業）

過程	1	2	3	4	5	6	7	8	9～13
0	集合・挨拶 目標確認 安全確認	集合・挨拶 目標確認 安全確認 準備運動	集合・挨拶・礼（相手を尊重し伝統的な行動の仕方を守る）・目標・安全確認（健康安全に気を配る） 準備運動（敏捷性を高める体力づくり・体ほぐし・動きづくり）						
5	導入								
10	①オリエンテーション 剣道の歴史と特性	①リズム剣道 体さばき 4前4後 送り足 四方八方（工夫させる）	①リズム剣道 送り足 （2人対面 リーダーに 合わせる） ②連続正面打ち 対面で その場連続前 後に移動回数 を決めて、交代	①リズム剣道の 正面打ち ・受け手の竹刀 を打った所から 2歩退き構え、1歩前進・ 更に前進正面 を打つ。 ・1歩後退し残 心を示し、更 に1歩退き元 に戻る。 繰り返す。	①リズム剣道 前時に同じ ☆ 気剣体の一致 を目指す。 ○正面打ち ○小手打ち ○胴打ち 気（声） 剣（竹刀） 体（体の出） 一致の打ち	①リズム剣道 前時に同じ ☆ ○小手・正面・ 胴打ちの回数 を決めてグル ープで練習す る。	①リズム剣道 前時に同じ ☆ ②スキップで 踏み込み動作 ③踏み込み動作に よる正面打ち 2人組みで、 1人が竹刀を 腰の横水平に 掲げる。 一方が中段の 構えから1歩 前進。次に踏 み込み足で竹 刀を打って通 り抜ける。 ④判定試合 踏み込み動作に よる正面打ち グループによ る判定試合	①リズム剣道 早素振り ☆ 右上段の構え から前へ出て 面打ち竹刀を 振りがぶりな がら1歩退る。 これを繰り返 す。 ②踏み込み動作に よる正面打ち 前時の復習 ③判定試合 踏み込み動作に よる正面打ち グループによ る判定試合	○木刀による基本技稽古法 を用いた展開 基本1～基本9 打ち方と受け方 打たせ方 ②グループ対抗試合 【最終日】 ○演武会 ○評価 ○講評
15									
20	竹刀の名称 取扱と注意								
25	②ボール打ち	②基本打ち 正面の打ち方 打たせ方 小手の打ち方 打たせ方 胴の打ち方 打たせ方							
30	③基本動作 構え方 納め方								
35	④素振り その場 前後移動	③連続正面打ち 対面で 前進後退	③礼法 座礼 立礼 三つの礼	○小手打ちも同様 に ○胴打ちも同様に 行う ②竹刀の持ち方の 確認	②判定基準 ・気迫のある発声 ・刃筋正しく打突部で打突部位 ・体の出と残心	②判定試合 グループ対抗			
40									
45									
50	整理	○竹刀体操（ラジオ体操第2のレコード） 本時のまとめ・評価・健康安全の確認・礼	【音楽】 ☆ネリーブライ（フォークダンス曲） など	◎竹刀体操は体育祭演技に仕上げる。					
剣道で 伝えたい 精神性	剣道の歴史 伝統文化	合気と間合 思いやり	相手に感謝 礼の実践	思いやり 相手や仲間	勇気 試合前後の礼	努力 自得的	共存と共生 打つ・打たせる	信頼・感謝	惻隱の情 平常心 負けた人の気持ち